

# Top Commitment

—— トップコミットメント ——



コスモ石油株式会社 代表取締役社長 社長執行役員  
森川 桂造

森川桂造

中核事業である石油精製・販売事業の安全・安定操業  
を実現し、「垂直型の一貫総合エネルギー企業」として、  
社会的責任を果たしてまいります。

## 千葉製油所の復旧状況について

2011年度は、東日本大震災を契機とした千葉製油所火災・爆発事故の原因調査、再発防止策の策定、そして稼働再開に向けた復旧作業に注力した1年となりました。改めて、製油所周辺地域の皆様をはじめ関係する多くの方々に、大変なご迷惑とご心配をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

コスモ石油は、2011年8月に事故調査委員会がまとめた「事故調査報告書」を監督官庁に提出し、行政指導を経て策定しました再発防止策をもとに、安全管理体制の再構築に全力で取り組んでまいりました。

そして2012年1月に精製装置の一部の稼働を再開し、3月から4月にかけては2系統の常圧蒸留装置も、定期整備に入るまでに稼働再開を果たすことができました。現在、完全復旧に向けて、事故で焼失した液化石油ガス（以下、LPG）タンクの新設を進めております。

こうした状況のなか、2012年6月28日に同じ千葉製油所で、アスファルトが製油所敷地外に漏洩するという事故が発生しました。重ねて心よりお詫び申し上げますとともに、ステークホルダーの皆様の期待に応えられますよう全力で再発防止と信頼回復に努めてまいります。

今後は、貯槽設備の耐震性改善や、緊急時対応能力・操作技術などハードとソフト両面の向上を推し進めることで保安技術レベルを高め、千葉製油所の完全復旧に取り組んでまいります。

## コスモ石油グループの事業活動について

石油精製・販売業を取り巻く環境は、国内需要の減少、デフレ経済の影響など厳しく、また、コスモ石油グループにおきましては主力である千葉製油所が長期間操業を休止している影響も大きく、安定供給に向けた石油製品調達コストの増加、輸出機会の損失、補修費の計上が重なったことなどにより、2011年の連結最終損益は赤字となりました。

解決策としましては、第4次連結中期経営計画でも掲げております「徹底した合理化」と「変革」の実行であり、石油精製・販売事業の収益基盤を固め、簡素で柔軟な供給体制を作り上げることが重要であると考えております。

この中期計画の進捗状況につきまして、石油開発事業では、引き続き産油国との信頼強化に取り組んだ結果、アブダビでの利権更新と既発見・未開発の新規鉱区を獲得するなど、今後も安定した供給体制を継続することができる見込みとなりました。

石油化学事業は、海外での提携先のヒュンダイオイルバンク(株)との合併会社であるヒュンダイコスモペトロケミカル(株)におきまして、パラキシレンの生産拡大計画を前倒して進めたことにより、2012年末には、韓国にて年間生産能力80万tの大規模なパラキシレン製造装置が完成する予定です。

石油精製・販売事業では、バイオETBE製造装置の運転を開始し、環境に配慮した製品の生産を行ったほか、ミックスキシレン製造装置を新たに建設して輸出を開始するなど、付加価値の向上による競争力強化に取り組まれました。

環境ビジネス分野では、風力発電事業者である子会社のエコ・パワー(株)により、新たに3つの風力発電サイト(約9万kW)の建設や、油槽所跡地などの遊休地を活用して太陽光パネルを設置するメガソーラー発電事業への参入も検討しております。

世界の80%の原体をコスモグループが供給しており、肥料としての効能が幅広く認知されるようになったALA事業につきましては、肥料だけではなく、サプリメントや化粧品が商品化され、さらに育毛剤などの用途開発も進めております。

このように、厳しい経営環境のなかにも成長が期待される「原油開発」「石油化学」「環境ビジネス」につきましては順調に推移しております。

コスモ石油グループがめざすものは、「垂直型の一貫総合エネルギー企業」であり、原油開発から精製、販売、石油化学を展開しながら、環境ビジネスにも注力してまいります。

## 皆様から信頼される企業であるために

コスモ石油グループでは、「CSR経営」と「収益基盤の強化」

を、事業活動の両輪と位置付け、本業を通じたCSR経営に取り組んでおります。

CSR経営の最重点項目である「安全・人権・環境」への取り組みは、社員一人ひとりが常に「コスモ石油グループ企業行動指針」に立ち帰り、自らの行動に置き換えて実践し続けることで初めて実現できるものであり、これを継続的に実践することこそが本業を通じたCSR経営の推進に他ならないと考えております。

とりわけ現在のコスモ石油グループにとって「安全」は、事業所や社員といった個別の問題ではなく全社レベルの問題としてとらえなければなりません。事故により失った社会からの信頼を回復するのは、並大抵のことではありません。社員一人ひとりが健全な危機感と緊張感を持ち、安全・安定操業を実現することで、信頼の回復を果たすことができます。その結果、安定した適正な収益を確保することができ、社会的責任を果たすことができると考えております。

また、CSR経営におきましては、事業活動を真摯に行った結果生じた利益をさまざまな社会貢献活動・環境保全活動・地域貢献活動を通じて社会に還元することも使命であり、これらを通じて得た信頼を競争力向上につなげていくことも経営者としての責務であると認識しております。そのため、第3次連結中期CSR計画の諸施策を実行してまいります。

コスモ石油グループでは、その取り組みをグローバル基準に則したものとするために、2006年より国連が提唱する「グローバル・コンパクト」に参加しており、人権・労働基準・環境・腐敗防止など基本原則を尊重したCSR経営に積極的に取り組んでおります。この基本原則は「コスモ石油グループ企業行動指針」にも通じており、社会的責任のある経営を推進し、持続可能な社会づくりに貢献したいと考えております。

2012年度は、第3次連結中期CSR計画の最終年度となりますが、仕上げとしてではなく、まずは信頼の回復に取り組み、さらに足下の重点課題と将来にわたって継続していく活動とを見極め、経営理念の原点に立ち戻り、皆様から評価される活動を一つひとつ積み重ねてまいります。

